

まちが変わる、生活が変わる。
未来、はじまる。

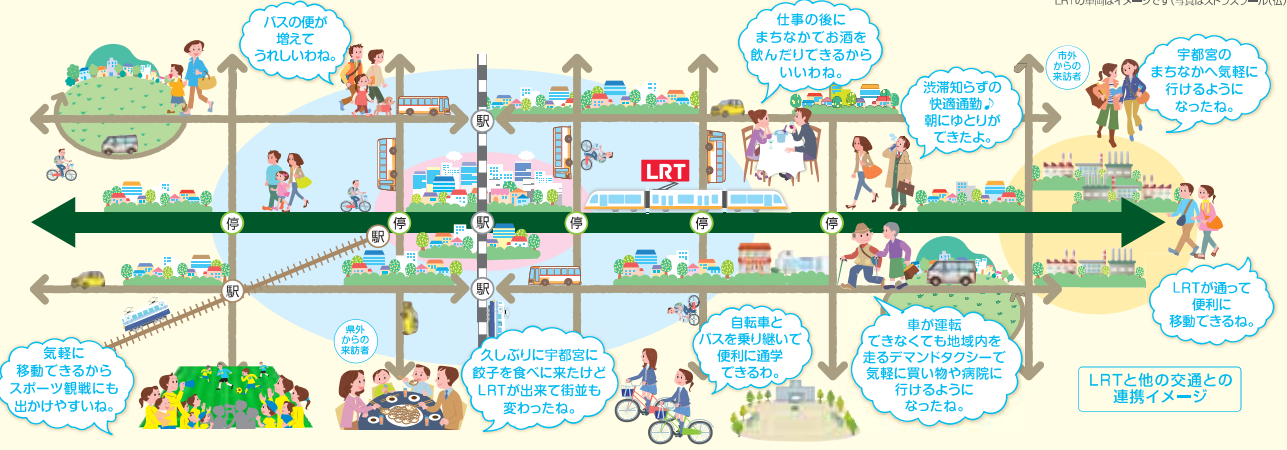
交通
未来都市
うつのみや

LRT

Light Rail Transit



LRTの車両はイメージです(写真はストラスブル(仏)の車両)



住めば
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

宇都宮市は、公共交通にLRTが加わることで、バスなどの他の交通手段も便利になり、もっと活力のあるまちへと変わります。人や企業から選ばれる、子どもから高齢者まで暮らしやすいまちへ。新しい宇都宮が動きだします。

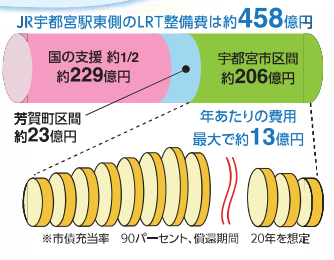
本当のところLRTってどうなんじゃ？

A 赤字にならないし、負担も増えないわ。
LRT事業は固く見積もっても年間約1.3億円の黒字なのよ。だから、増税や新たな負担の心配はないわ。

Q LRT運営の赤字が不安じゃ…増税されるののう…

A いいえ、JR宇都宮駅東側で約458億円よ。
1年で最大約13億円の費用で導入できるわ。市は福祉や子育て・医療・教育にも力を入れていて1年で約1,600億円使っているのよ。

Q LRT整備に1,000億円以上かかるって本当か!?
そんなにかかるなら福祉や子育てはどうなるんだ!?



A LRTを導入することで、そこを運行していたバスを市全域に割り振ることができるのよ。
LRTを軸にさまざまな公共交通がつながり、バスの本数なども増えて市全体が便利になるのよ。また、バスでは小さく、地下鉄では大きすぎるの。宇都宮市に最適な交通システムがLRTだよ。

Q なぜLRTじゃないといけないんじゃ? バスを増やすだけではダメなのか?

A 公共交通でも移動しやすいまちになれば、人や企業に選ばれ、行政サービスの財源も確保できるわ。
産業拠点である清原工業団地からは、県・市で約130億円の税収があるの。LRTが通ると沿線の活性化や産業の振興が期待できるし、これからは福祉や子育てなどの財源を安定的に確保できるから、全ての市民にメリットがあるのよ。鉄道や新幹線も毎日乗らないけれど、宇都宮にできたことで人や企業が増えて、まちが発展してきたじゃない!

Q 毎日乗らないし、沿線から遠く離れたわたらの税金が使われるのはのう…

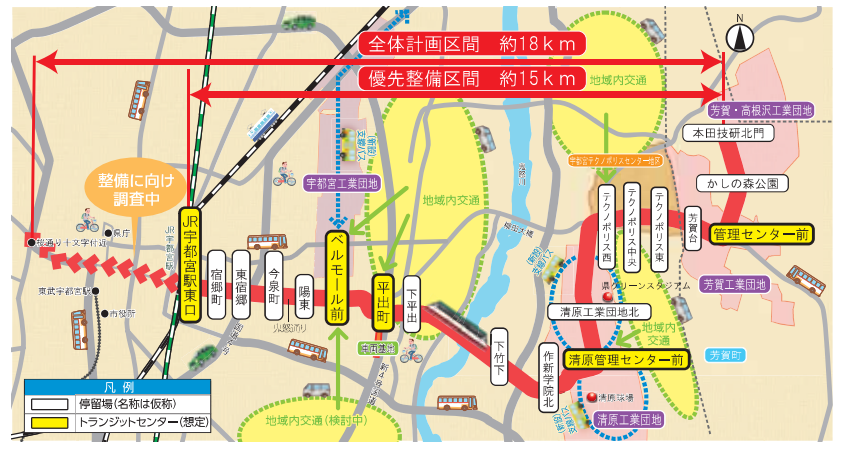
A いいえ、ひどくはならないわ。
自動車交通に配慮した信号点灯サイクルの調整や交差点改良を行い、円滑な交通を確保するわ。周辺の道路ネットワーク整備にも計画的に取り組むことで、公共交通と自動車共存した社会を目指していくのよ。

Q 渋滞が今よりもひどくなるんじゃないか?

宇都宮市の予算規模は約2,000億円^{※1} 財政健全度は第3位!^{※2} LRTは身の丈に合った投資だよ!

※1 一般会計予算 ※2 人口50万人以上の都市での順位(出典:東洋経済新報社「都市データバック2016年版」)

宇都宮東部地域のLRT導入ルートと将来公共交通ネットワークのイメージ



優先整備区間の運行計画	
運賃	初乗り150円~400円(対距離制)
運賃収受方法	交通ICカードシステムの導入
運転時間帯	午前6時台~午後11時台 (JR宇都宮駅の新幹線の始発・終電に対応)
運行間隔	ピーク時は6分間隔(1時間当たり10本) オフピーク時は10分間隔(1時間当たり6本)
所要時間(起終点間)	▼普通電車(各停留場に停車)約44分 ▼快速電車(一部停留場を通過)約37~38分
JR宇都宮駅東口から主な停留場までの所要時間・運賃の目安	普通電車を利用した場合 ▼ベルモール前……………約11分/150円 ▼清原工業団地北……………約27分/300円 ▼本田技研北門……………約44分/400円

お問合せ:宇都宮市 建設部 LRT整備室 TEL028-632-2305 総合政策部 交通政策課 TEL028-632-2134

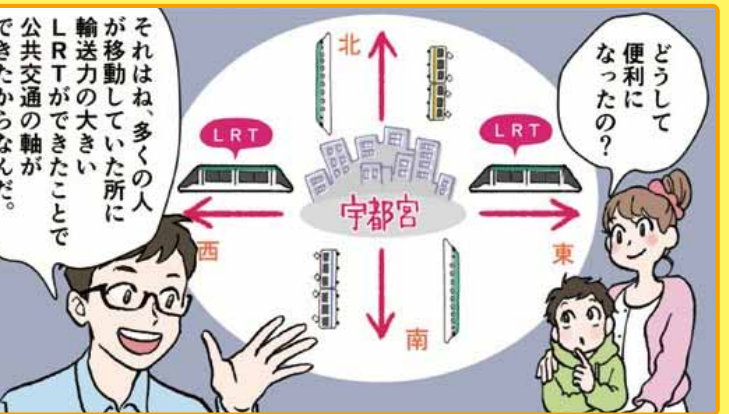
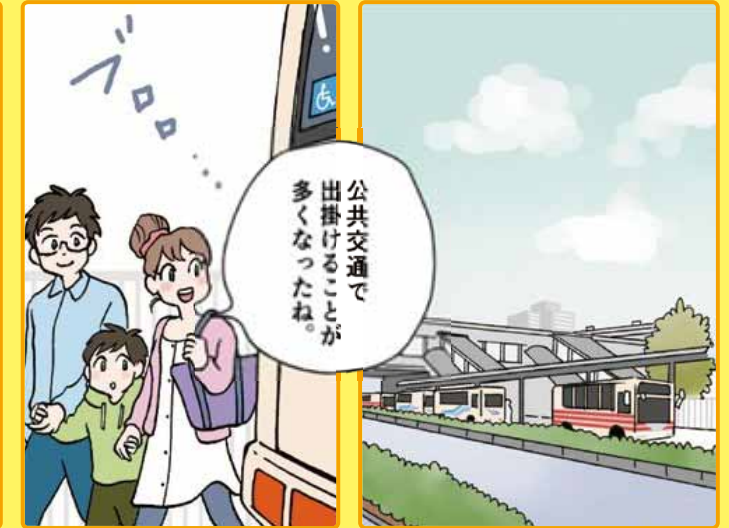
まちが変わる、生活が変わる。

未来、はじまる。



まちが変わる、生活が変わる。

未来、はじまる。



乗り換えを快適にするために…

LRT、路線バス、地域内交通、タクシー、自動車、自転車など、さまざまな交通手段をスムーズにつなぐ場所として、トランジットセンターと呼ばれる乗り換え施設を主なLRTの乗り場に整備します。将来的には、多くの人々が移動に合わせて利用したいコンビニやカフェ、託児所、ショッピング施設などが集まり、毎日の暮らしを、より便利に、豊かにする場所として期待されます。

LRTが整備されると…?

多くの人々が移動している所にLRTを整備して、公共交通の軸をつくることで、そこを走っていたバスの一部を郊外へ割り振ることが可能となり、路線バスの本数やコースを増やすことができます。これにより、市全域でさまざまな公共交通が充実し、それぞれがスムーズに連携しながら、子どもから高齢者までみんなに優しい、活気あるまちの公共交通ネットワークをつくります。